



第 52 号

平成 28 年 10 月 5 日

農業委員会だより

発行

中野市農業委員会

編集

農業委員会だより編集委員会



みなみ保育園児を招き、遊休荒廃農地対策として栽培したジャガイモの収穫体験

会長 中村 秀人



農業委員会だよりによせて

日頃は、安心安全な農産物づくりを通し、農業の振興・発展にご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

今年の気象においては、春先より高温干ばつ傾向が続き、8月下旬には平年を上回る大雨など不安定な状況でありましたが、大きな自然災害もなく作柄としてはまずまずのことと推察いたします。

そのような中、今年、中野市においては、I・Uターンの含めて25名の方

が新たに農業者の仲間入りをされました。誠に喜ばしい限りでありますし、地区をあげてぜひ応援していただければと思います。

また、本年4月1日より農業委員会法の改正法が施行され、「担い手への農地集積・集約化」、「遊休農地の発生防止・解消」、「新規参入の促進」のいわゆる農地利用の最適化が農業委員会の必須業務となりました。

当委員会も、平成30年4月施行に向けた体制への検討を重ねているところでございます。農業委員定数は削減されますが、一方で、新設される農地利用最適化推進委員が担当地域内で現場活動をより強化し、将来の農地の使い方を決める手助けを行って参ります。

皆様には、農業委員会の現在の活動も含め、今後に向けたご支援ご協力を切にお願いするところでございます。

各部会の報告

農地部会では、農地法の指導徹底、農地パトロールの実施、遊休農地の解消を目指した活動を行っています。



▲農地パトロール



▲遊休農地の活用検討

農政部会では、市長・経済部との農政懇談会、農業者年金加入促進、全国農業新聞の普及推進を行っています。



▲市長との農政懇談会



▲ションションまつりに参加

振興部会では、新規就農者の支援、遊休荒廃農地を活用しジャガイモやカボチャを生産して保育園と交流を行っています。



▲振興部会のカボチャ畑



▲ジャガイモの収穫体験

北信州農村女性のつどいに参加して

傳田 和子

お盆が過ぎたとはいえ、まだまだ残暑厳しい8月26日に、木島平村の若者センターで、「平成28年度北信州農村女性のつどい」が開催されました。

つどいは、農業の担い手である女性農業者の能力向上を図り、各人が農業に誇りと自信を持って取り組めるように、北信地域の農業関係者が

一堂に会し先進事例や活動を紹介するものです。

開会前には、フリーマーケットが開かれ、各団体自慢の加工農産物販売が行われ参加者の胃袋を満たしました。

講演では、長野県短期大学教授の中澤弥子先生による「伝えよう育てよう日本・信州の食」というテーマのお話で、平成26年度文化庁文化交流大使としてヨーロッパ7カ国を訪問され、ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」について、講演会や試食会、ワークショップを行い、日本の伝統的な食文化について紹介されてきたそうです。

中でも「和食」の一番人気はお寿司で、「巻きずし」の人氣が海外で急上昇しているそうです。外国の人には和食は新鮮で美しく健康的というイメージがあるようです。

長野県内でも「味の文化財」に選択された「おやき」「五平餅」「野菜菜漬」「手打ちそば」「すんき漬」5品目があり、この優れた食文化を将来にも



▲N j ☆北信による事例発表の様子

大切に伝えてほしいということとです。

事例発表では、①松本市梓川の加工組合「さくら」の斎藤利恵さんの発表、②木島平村の糠千地区で「地域おこし協力隊」として活躍している馬場千遥さんの発表、③N j ☆北信（農業女子）の木内マミさんと仲間たちの若い農業女子の皆さんが大勢参加されました。

今後、農村女性の益々の活躍が期待されます。

農業委員会研修視察の報告

金井 光正

8月18日と19日に農業委員会の研修視察を行いました。

1日目は、日頃使用している農業について、埼玉県上里町にある日産化学工業(株)埼玉工場を視察しました。この工場では水田用の除草剤をはじめ、殺虫・殺菌剤・水和剤といった多彩な農薬を製造しています。工場は衛生的で気密性の高い環境となっており、30年位前に他の農薬会社を視察した時から比べると、

技術の進歩に驚かされました。

2日目は、千葉県柏市にある「千葉大学環境健康フィールド科学センター」の植物工場の視察を行いました。

工場では、自然光とLEDを使った人工光で管理されたビニールハウスや施設での栽培方法が研究されています。ハウス内では無菌状態で葉物のレタスが栽培され、結球レタスは58日、リーフレタスは34日出荷が可能になり、外食産業を中心に、洗わずに使用が出来るということで需要が広がっています。

今後、葉物野菜などの植物工場がどのようになっていくのかを担当者に質問をしてみたところ、「初期の設備投資が莫大で3年間は赤字覚悟で資金がないと成功しない。急速には広がらないと思うが、技術的に栽培が可能で今後期待が持てる」とのことでした。荒廃農地が増え後継者が不足している現在の農業において、農業生産のこのような動きに、今後注視していく必要性を感じました。



▲千葉大学での植物工場視察の様子

北信五市農業委員研修会に出席して

高橋 直志

千曲市において、北信五市の農業委員約130人が集まり、「改正農業委員会法に基づく農業委員活動等について」の研修会を行いました。

講演では、新しい制度の概要について、一般社団法人長野県農業会議の農政・農地部長佐藤源彦氏から説明がありました。

新しい制度では、①担い手への農地の集積・集約化、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進の3点を柱に農業委員会の必須業務として強化されました。

これらは従前から、農業委員会の基本業務でした。遊休農地が増えてしまうという問題は、現実には受け手がいないということであり、「儲

▼研修会の様子



かる農業になつていくのか」「将来に不安はないのか」が問われています。日本の食糧自給率が低下してい

るとも言われましたが、これは、生産者にとつては園芸なり、米作なり、畜酪なりの、農業で生活できるかどうかの問題なのでしょう。

講演終了後には、厳しい質問や意見が出され、北信地域の共通の課題や、農業委員の役割について、情報を共有することができました。

事例発表は、長野市農業委員の久保田冷子さんから、「裾花ていばん家」の設立と運営について発表がありました。

久保田さんが住む長野市鬼無里地区は、「人よりも獣のほ

うが多く住む、典型的な中山間地」と表現するほど過疎・高齢化が進んでいます。

地元活性化のため、伝統の「しよっぱい味噌漬け」を作る会社を、地区の農家84人の出資で設立し、手作り味噌で地元野菜を味噌漬けに加工して販売しています。これは、地域を挙げての6次産業への取り組みです。今どきのパン食・洋食好みの若い世代に、この「味噌漬け」を広げるのは大変だと思いますが、頑張

編集後記

今年は、何度となく台風がやってきています。幸い、中野市にはそれほど被害がなく過ぎていますが、今後

も災害もなく無事に秋の収穫を願うばかりです。さて、私たち第5代農業委員も任期の半分を過ぎましたが、取り巻く農業情勢は混々としております。農地を守ることが農業委員の使命と言われますが、農地をただ守るだけでなく、どのように活かすかを考えなければなりません。

農地には、荒廃農地や利用されていない農地が多数あります。今後この農地の有効利用を図るために、農地中間管理事業による農地の集積化を進めていきます。皆さんの周りで、耕作ができなくなった農地、知らない人に農地を貸すのが不安など、農地に関する相談や情報がありましたら、お近くの農業委員までご相談ください。

編集委員

小林 成雄
小林 利雄
清野 信之
浅野 清

全国農業新聞

経営とくらしを応援!!

を購読しませんか

全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門誌です。

農政の動きをはじめ、農業技術や税制解説のほか経営・流通の最新情報などが満載です。

○発行日 毎週金曜日

○購読料 700円/月

お申し込みは、お近くの農業委員、または農業委員会事務局へご相談ください。

長野県最低賃金

時間額 770円

平成28年10月1日から

農作業で人を雇う場合も守る必要がありますので、ご注意ください。詳しくは、長野労働局まで。

一人ひとりの農業者を応援する

農業者年金

国が支える

安心が大きくなる

担い手積立年金

農業者の老後の備えは、国民年金プラス農業者年金が基本です。

農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは、農業委員会もしくはJA中野市金融推進課へご相談ください。